

## 医療機器業界の現状

例えばあなたが胸に締め付けられるような圧迫感を覚えて病院に行ったとします。診断は狭心症、心臓の栄養血管である冠動脈の血流が不足することによって心筋が酸素不足に陥る病気です。悪化すると心筋梗塞を起こす恐れもあるため、冠動脈を広げる手術を受けることになりました。

まず検査のため、足の付け根からカテーテルと呼ばれる細い管を心臓付近まで入れ、その後ステントという金属製の筒を冠動脈に留置することで血管を広げます。時間にして30分程度、胸痛はウソのようになりました。

あなたは現代医療の素晴らしさに心から感謝すると思いますが、実は前述のカテーテルやステントといった治療系医療機器における海外製品の占める割合は実に90%以上という現実があります。

国内で使用者が40万人にも上るペースメーカー（不整脈の治療機器）の日本製品比率はなんと1%以下、手術件数が年間4万件以上に達する人工股関節でも80%近くを海外からの輸入に頼っています。

またペースメーカー等はアメリカでは25万円程度の価格にもかかわらず、日本に入ってくると100万円以上の価格設定になっています。

このように国内における先進的治療領域における海外製品比率が異常なまでに高いことは、欧米ではあたりまえに使用されている先端医療機器が日本では未承認で使えない、結局医療費の高騰につながり家計を圧迫する要因になっている等、日本の医療業界に暗い影を落としており、なんらかの原因により輸入が滞れば医療現場はたちまち大混乱に陥るといった危険性を持っています。

当財団法人の代表理事である山田満は、このような医療機器の現状を嘆き、まずはこの国の基幹産業である「ものづくり」について、若い人たちにもっと注目してほしい、そして最先端医療である精密機器の開発に携わってほしい、なんとしてでも国産の治療系医療機器の開発を推進してほしい、との理念から当財団法人を設立いたしました。

我が国の若人達に医療機器業界の未来を創造してほしいと心より願っております。